

ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.19 2008年10月5日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 HP: <http://www.seikei-seminary.org/>
電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804 郵便振替口座 00190-1-85761 「聖契神学校」

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。季節は秋。重苦しい期末試験から解放され、各々の最終クラスで楽しいお茶会を開いた後、宿題なき、夢のような学期休みを満喫している在校生たち。キャンパスも静かです。4月入学の面々も、半年経てばベテランの様相。「後期から7名加わるので、背中を手本を見せてね」と励ますこの頃です。「私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見ならってください」(Iヨハ11:1)

校長 関野祐二

● 去る人、来る人、戻る人

今は前後期入れ替えの時期。最近は、学ぶ方々の出入りも理由が多様化しています。もちろん、事情で学びを継続できなくなる人もいますが(いつか戻ってきて、と祈ります)、近い将来の働きに備えて半年や一年の期間限定聴講、他校での聴講単位を生かした編入、休学明けの復学などなど。この前期で聴講期間2年満了の方や特別聴講終了者もいます。特に聴講は「お試し期間」として大いに活用していただきたい制度です。チョコッと聴講というほど楽ではありませんが。

そんなわけで、この後期から新たに聴講生となる7名、在校生の出入りを含めた数を合計すると、64名で10月は出発です。基礎科から専門科に進級する方は3名、来春卒業予定者も3名。体調管理に気をつけて、充実した学びを続けてほしいです。教師の健康管理も、ですね(自戒)。

● 教員室のひみつ

だいたい、教員室(校長室も)というのは悪いことをした学生が呼び出される場所と相場が決まっています。我が神学校とはいえば、ここは在校生にとって入試面接の苦い思い出が染み込んだ部屋。そのせいか、筆記試験の結果をありのまま(のつもりですが)伝えたことばを、卒業まで覚えている執念深い人が大勢いるのは困ったものです(暗唱聖句を覚えてね)。ふだんは在校生立ち入り禁止区域で、その日の授業担当教師たちが、キリスト教界の話題を分かち合い、神学の研鑽を互いに積み(これはほんとうです)、時には牧会の悩みを打ち明ける、とても豊かな空間。チャペルタイム後の休み時間には、たった今語られたみことばの分かち合いがよくあります(チャペル担当の皆さん、要注意!)。ですから、授業担当のない日も極力同席することにしています。

ところで、かごに盛られたお菓子のチョイス(ビスケットのChoiceもあるよ)は重要な仕事。どの先生が何を好むか、さすがにおつきあいが長いのですべて把握済みです。揚げせんべいが好きな人、チョコレート系が必須な人、はたまた全種類をくまなく召し上がる先生も(誰だか当ててみて)。甘い甘いホットチョコレート(Swiss Miss)はこれからの季節、売れ行きがよくなります(帰国中のP先生は日に?杯)。日頃激務をこなす先生方には、せめてこの時くらいくつろいでほしいですね。短い休み時間を終えて、「よろしくお祈りします」と後半授業へ送り出します。

● 後期クラスは

この後期は、クラス履修人数がずいぶんアンバランスとなりました。今、在校生分布が基礎科に偏っていることもあり、専門科科目や基礎科実践神学系（2年目以降の履修者多し）は軒並み一ケタ台前半。一方の基礎科は15人以上の大所帯が4クラスもあり、新規科目「中間時代」は14名。ハハア、いやし系に流れたなと思ったら、なんと我が「神学概論」は20名。顔ぶれも聴講生から3年目ベテラン(?)まで多彩ですから、楽しくにぎやかになりそうです。それにしても、あの教室に机四列は苦しいので、もうワンサイズ広い教室がほしいですね。

そういうわけで、お待ちかね「中間時代」が基礎科新規クラスとして、この後期から始まります。旧新約に挟まれた空白の四百年間と言われますが、戦乱と激動、ローマ帝国の台頭、パリサイ派やクムラン教団の成立など、新約のバックグラウンドを提供する要素に事欠かない、魅力的な学びになること間違いなし。なんたって、担当教師は黄色のYシャツと橙色の靴下がトレードマークのいやし系横綱、はたまたユダヤジョークの宝庫、I先生（年上のほう）ですから。2年間は選択科目ですが、それでもこれだけ履修者が与えられたのは、企画側としてもうれしいことです。

● オープンキャンパスですよ

やって来ました、今年のオープンキャンパス。昨年は暴風雨の中、大勢の方々が来校してくださり、とても励まされました（M姉は最後まで残ってくれて、今はりっぱな基礎科在校生）。今年も例年通りの盛りだくさんプログラムで、来校する方々をお迎えします。公開授業は話題のI先生による中間時代特別講義と、わが新約神学を用意しました。お客さまが片方に流れたらやだな。

お昼は恒例の歓迎昼食会、学生会の企画主催によります。在校生の証しがなぜか例年抱腹絶倒となり（決して不真面目ではないので念のため）、実はみんな密かにそれを期待しているところあり。今年はだれが登場するのでしょうか。

午後の特別講演会には、東京基督神学校の山口陽一校長を一年前から予約済み。同年代で同時期に校長就任した、親しい同労者です。他校の校長をこちらのオープンキャンパスにお招きするのもユニークですが、実はこれ、聖契神学校の伝統でもあるのです。献身者を取り合う（奪い合う？）のではなく、学びの形態にふさわしい神学校を選んでもらい、より良き献身者を育成する、美しい紳士協定。実際に、こちらを見学してあちらへ、あちらを見学してこちらへという実例もあります。講演会のテーマは、日本キリスト教史が専門の山口師にふさわしい「プロテスタント宣教150年に学ぶ」。来年がこの節目に当たり、あちこちの記念集会や日本伝道会議などのご用で引っ張りだこの先生、きっとすばらしい講演をしてくださるでしょう。どうぞおいでください。

今、学生会役員会と当日の準備を打ち合わせています。背伸びして良く見せる必要はないけれど、せっかくおいでくださる皆さんを、温かく嬉しくお迎えしたいですね。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 10月9日からの後期授業のため。新規聴講生7名が早く学校に慣れ、学びと交わりが豊かに与えられるように。基礎科新規科目「中間時代」（担当：井上誠師）のため。
- ・ 10月25日（土）のオープンキャンパスに、多くの来校者が与えられ、共に学ぶ希望者がたくさん起こされるように。各地の神学校の働きが祝福されるように。
- ・ 神学校の働きが守られ、キリスト教界における使命を全うできるように。教職員、運営委員、理事の働きが支えられるように。次年度事業計画と予算案立案のため。